

みなさん、お疲れ様です。今月もこうして、ここで僕が書き進めてしまおうしようもないエッセイもどきを読んでくださって本当にありがとうございます。皆様の貴重なお時間を、このような駄文のお付き合いに費やしていただいていると思うと本当に恐縮至極でございます。とまあ、そんな風に書き始めてしまいました。こんな僕でも、やっぱり多くの皆様の目に留まる事を前提に書いているワケですから、ないアタマで少しは色々考えるんですよ。

はい、皆さん、ここで視線をこのページ右上に移してくださいませ。そこには。

きもちのなかのまちがいがし。

と、デザインされた書体で書かれていますね。その下に②とあってその下に、27年目325回とあって、その下にはエッセイスト北園修、と続きます。

ここで注目していただきたいのは「きもちのなかのまちがいがし。」というコトバです。これは、毎月僕がちまちな書き重ねていくエッセイのおおきなタイトルです。言ってみりや短編集のタイトルみたいなコトバです。②は、そのタイトルの元で何回目の原稿かを示しています。その下のコトバは、今回書いたエッセイの題名ですね。

さてと皆さん、このエッセイ、年度ごとにタイトルを変えているの事にお気づきですか？

ここで問題です。この新年度、先月号から、タイトル

を、きもちのなかのまちがいがし。

としましたが、3月号まで2年間使っていたタイトルのコトバはなんとこのコトバでしょーか？

ね、みなさんあまり注意いして見てなかったでしょ。

正解は。

まああるくあるく。

というコトバでした。このコトバは、実はもう十数年前、横浜駅西口のとあるショッピングモールのイメージ広告のために書いたコピーです。ビジュアルは高杉嵯知画伯の作品、セクシーな観音さまがどーん！。碁盤の目のように広がるそのショッピングモールを四角く歩くのではなく、まるやかな気分です歩いてね、というメッセージ、その他いろいろな要素を込めて起こしたコピーでした。広告表現は消費期限が決まっているので、すぐに目の前から消えていくものですし、自分の書いたコトバを見るのをあまり好きではない僕ですが、まああるくあるく、という、ひらがな7文字のコトバから受ける気配や気分がちよつと気に入っていて、ここで書かせていただいているエッセイのタイトルにしてきました。

今、なんだか厄介なウィルスのせいで、周囲がナーバスになっていますね。僕はそういったことに無頓着、というか楽観的だと自分の分としては思っていたのですが、やっぱり無意識に気分的に影響をうけているようです。独りでの時間はもともとたくさんあったにせよ、今ま

で以上に自分と対話する時間が増える。すると。

左の絵の中の自分と、右の絵の中の自分には違う箇所がいくつかあります。間違っているところに丸をつけましょう。

というようなことをイメージし始めたので、本年度のエッセイのタイトルは、きもちのなかのまちがいがし。としてみました。

それにしてもこの連載、27年目に突入、この号で合計325号なんだね(多分)。自分でもあきれれるわ。

お会いしたことはなくても、毎月楽しみに待っていてくれて、熱心に読んでくださる方々、インターネットを通じて読後の感想を寄せてくれる方。本当にありがたいです。

そして、27年も連載を許してくれて、毎度毎度、こんなユルイ文章を大切に扱ってくださいの中法ニュースの編集に携わる関係者の方々にもアタマが下がる思いでございます。

早く、心置きなく皆で呑める日が戻ってきますように。

それでは、またね。



Photo:藤間 久子「Slowly」